

# 固体廃棄物の保管・処理・処分 月例レポート 2025年2月

**概要** 2011年に過酷事故を起こし、現在のロードマップでは2051年の廃炉に向けて長期廃炉作業中の福島第一原子力発電所において生じる廃棄物は、例えば火力発電所のような他の巨大プラント廃止時に生じる廃棄物と比較して、すべての廃棄物が強弱はともかくとして、すべて放射能を帯びてすることに大きな違いがあります。

まず、[3～5ページ](#)に引用した原子力規制委員会の「[東京電力福島第一原子力発電所の中期的リスクの低減目標マップ](#)」から、直近の福島第一原子力発電所が、どこにどのくらいの放射性物質を抱えているかご確認ください。

この放射性物質は廃炉作業を進める現場の作業員にとって、また大きな自然災害等があった場合には周辺地域(にいる人)にも大きなリスクとなります。

それ以降のページにはは、東京電力等の資料から、福島第一原子力発電所に現在どのような廃棄物がどのくらいの量、どのような形で保管されているか、およびその今後の対策をを分かる限り押さえていきます。

**【New!】** [福島第一原子力発電所における放射性固体廃棄物およびその対策の概要 \(3ページ\)](#)

[高温焼却炉建屋およびプロセス主建屋ゼオライト土嚢等集積作業 \(47ページ\)](#)

**【更新・続報】** [固体廃棄物の管理状況\(ガレキ等\) \(12ページ\)](#)、

[固体廃棄物の管理状況\(水処理二次廃棄物\) \(13ページ\)](#)

[固体廃棄物の管理状況\(最新配置図\) \(17ページ\)](#)

[固体廃棄物の管理状況\(保管量の推移\) \(18ページ\)](#)

[固体廃棄物の保管管理計画\(2024年度改訂版\) \(19ページ\)](#)

[放射性廃棄物の処理・処分スケジュール \(23ページ\)](#)

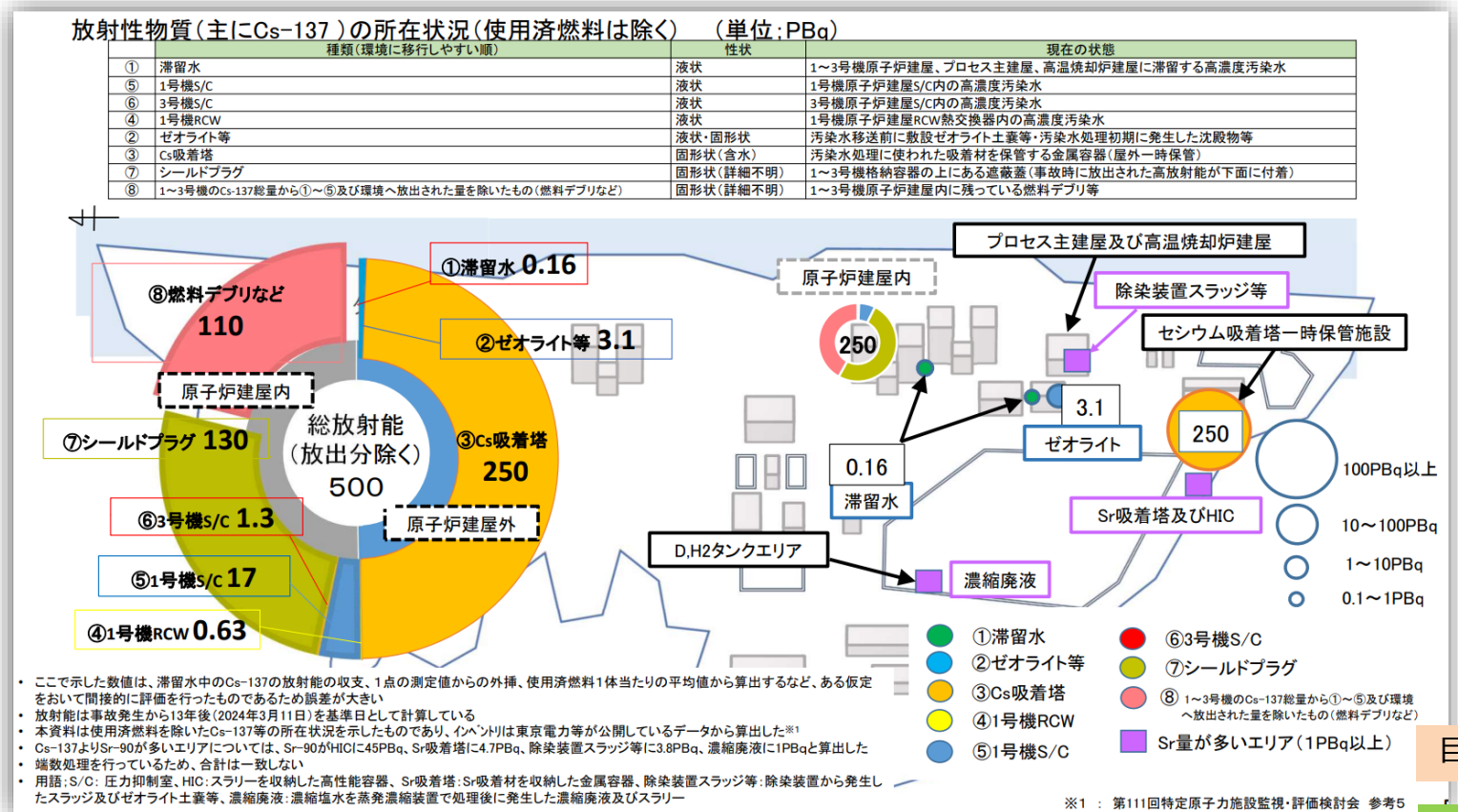
[増設雑固体廃棄物焼却設備施設復旧に向けた進捗状況 \(46ページ\)](#)

## 2 福島第一原子力発電所内の放射性物質総存在量(インベントリ)の推定

下記出典によると、2011年3月に福島県を中心に降り注ぎ、[11市町村](#)、[約16万5千人の避難者](#)を生じせしめた放射性物質をはじめ、これまでに環境に漏出したCs-137(14 PBq)の約560倍の Cs-137 (6720 PBq)が現在の福島第一原発に残っていることとなります。

**【筆者注:PBq(ペタベクレル):Pはペタ(peta): $10^{15}=1$ 千兆。Bqはベクレル=放射能の強さを表す単位で、単位時間(1秒間)内に原子核が崩壊する数を表す。例:3号機原子炉シールドプラグに存在するCs-137の推定値=:40 PBq】**

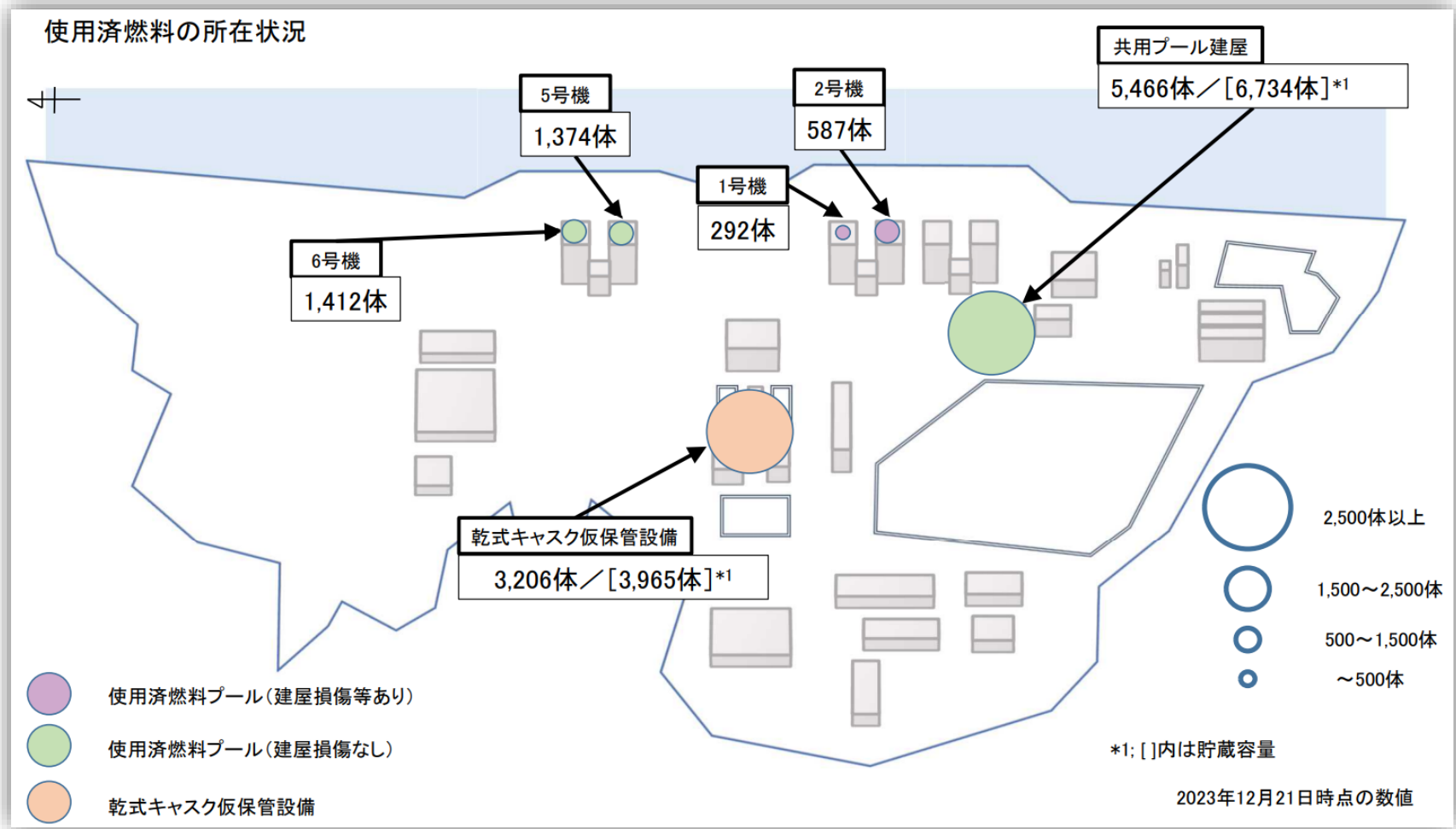
(次ページに使用済燃料の所在状況)



目次に戻る

概要に戻る

(次ページに主要なインベントリ (Cs-137) の一覧)



目次に戻る

概要に戻る

(次ページから 2 保管されている廃棄物の種類・性状・保管の形態)

### 主要なインベントリ(Cs-137)の一覧

#### 建屋・吸着塔等に存在するもの

所在	インベントリ (PBq)
滞留水(①)	0.16
ゼオライト等(②)	3.1
Cs吸着塔(③)	250
1号機RCW(④)	0.63
1号機S/C(⑤)	17
3号機S/C(⑥)	1.3
シールドプラグ(⑦)	130
1~3号機のCs-137総量から①~⑦及び環境へ放出された量を除いたもの(燃料デブリなど)	110
事故発生から数週間までに環境(大気、海洋)へ放出された量	14
1~3号機のCs-137総量	520

#### 使用済燃料

所在	インベントリ (PBq)
1号機使用済燃料プール	120
2号機使用済燃料プール	330
3号機使用済燃料プール	0
4号機使用済燃料プール	0
5号機使用済燃料プール	700
6号機使用済燃料プール	720
共用プール	2,800
乾式貯蔵キャスク	1,600
合計	6,200

2023年12月21日時点

ゼオライト土嚢等集積作業に戻る

- ◆ 赤枠は、対処すべきものとして優先度の高いもの
- ◆ ここで示した数値は、滞留水中のCs-137の放射能の収支、1点の測定値からの外挿、使用済燃料1体当たりの平均値から算出するなど、ある仮定をおいて間接的に評価を行ったものであるため誤差が大きい
- ◆ 端数処理を行っているため、合計は一致しない

目次に戻る

概要に戻る

## 7 ロードマップ第6版に見る固体廃棄物対策

[2019年の中長期ロードマップ\(以下、ロードマップ\)](#)」24ページ以降の「4-5. 廃棄物対策」では、「基本的な考え方」として、以下の基本的考え方に沿って、関係機関が協力しつつ国の総力を挙げて取り組み、保管・管理、処理・処分を行っていく。対策の専門的検討は、国の認可法人である[原子力損害賠償・廃炉等支援機構\(廃炉支援部門\)](#)(以下、支援機構)を中心に進めるとしています。

※ なお[次々ページ](#)までの記述は下記出典の記述をもとに筆者が要約したものです。

### 「基本的な考え方」の概要

- 1、放射性物質の閉じ込めと隔離による被ばくの低減。
- 2、廃棄物の減量(減容)。
- 3、廃棄物の性状の把握。
- 4、順次明らかになってくる廃棄物の発生量の把握。
- 5、処分施設の仕様およびそれに適した廃棄体の技術的要件の明確化。
- 6、福島第一原子力発電所敷地内での保管容量の確保。
- 7、安定化・固定化するための処理(先行的処理)の方法を合理的に選定する手法の構築と、先行的処理の方法の選択。
- 8、固体廃棄物の管理全体に関連する施設の整備や人材の育成を含めた継続的な運用体制。

廃棄物の保管・管理については、

- 1、容器収納や固定化等の先行的処理により閉じ込め、福島第一原子力発電所敷地内に必要十分な容量の保管場所を確保する。
- 2、固体廃棄物量を低減するため、廃棄物となるものの搬入の抑制、再利用・再使用および減容等の取組を継続していく。

[目次に戻る](#)

[\(次ページに続く\)](#)

[概要に戻る](#)



- 3、**東京電力**は、10年間程度に発生する固体廃棄物の物量を予測し、発生を抑制するとともに減容化を図り、継続的なモニタリングによる適正な保管を前提とした**保管管理計画**を策定しているが、廃棄物の物量は今後の廃炉作業の進捗状況や計画等により変動するものであることから一年に一度発生量予測を見直し、必要に応じて更新を行う。
- 4、水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対を除くすべての固体廃棄物(伐採木、ガレキ類、汚染土、使用済保護衣等)の屋外での保管を解消し、作業員の被ばく等のリスクを低減する。
- 5、多核種除去設備(ALPS)等で発生したスラリー(高濃度の放射性汚泥)については脱水処理を行う。
- 6、2011年6月～9月にかけて運転していたプロセス主建屋内の除染装置から発生し、建屋内に保管されている高濃度の廃スラッジ(放射性物質を凝縮したもの)については、建屋からの抜き出し・高台移転によって漏えいリスクを大幅に低減させる。
- 7、水処理二次廃棄物(吸着塔類)については、保管施設を設置し屋外での一時保管を可能な限り解消する。
- 8、燃料デブリ取り出しに伴って発生する固体廃棄物については、保管・管理方法等の検討を、燃料デブリ取り出し方法の検討と合わせて進める。

処理・処分については、

- 1、放射性物質分析・研究施設を整備するとともに、分析要員の育成・確保による分析能力の向上を図る。
- 2、先行的処理が施された場合の固体廃棄物の仕様ごとに、複数の処分方法に対する安全性を評価し、その結果に基づいて処理方法を選定する。

(次ページに続く)

目次に戻る

概要に戻る

- 3、支援機構が毎年定める「東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所廃炉のための技術戦略プラン」(以下、**技術戦略プラン**)において、2021年度頃までを目処に、処理・処分方策とその安全性に関する技術的な見通しを示す。具体的には、固体廃棄物の物量低減に向けた進め方を提示するとともに、性状把握を効率的に実施するための分析・評価手法を開発する。
  - 4、東京電力は、保管・管理時の安全確保に係る対処方針や性状把握に有用な測定データを早期に示す
  - 5、第3期に固体廃棄物の性状分析等を進め、廃棄体の仕様や製造方法を確定する。
- その上で、発電所内に処理設備を設置し、処分の見通しを得た上で、廃棄体の製造を開始し、搬出する。

(次ページから

廃炉等支援機構「福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン 2023」に見る固体廃棄物対策)

出典：2019年12月27日廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議

「東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/20191227.pdf>

2023年10月18日 原子力損害賠償・廃炉等支援機構「東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン 2023」  
[https://dd-ndf.s2.kuroco-edge.jp/files/user/pdf/strategic-plan/book/20231018\\_SP2023FT.pdf](https://dd-ndf.s2.kuroco-edge.jp/files/user/pdf/strategic-plan/book/20231018_SP2023FT.pdf)

2024年2月7日 原子力規制庁「東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所の中期的リスクの低減目標マップの改定（1回目）」  
<https://www.nra.go.jp/data/000468362.pdf>

目次に戻る

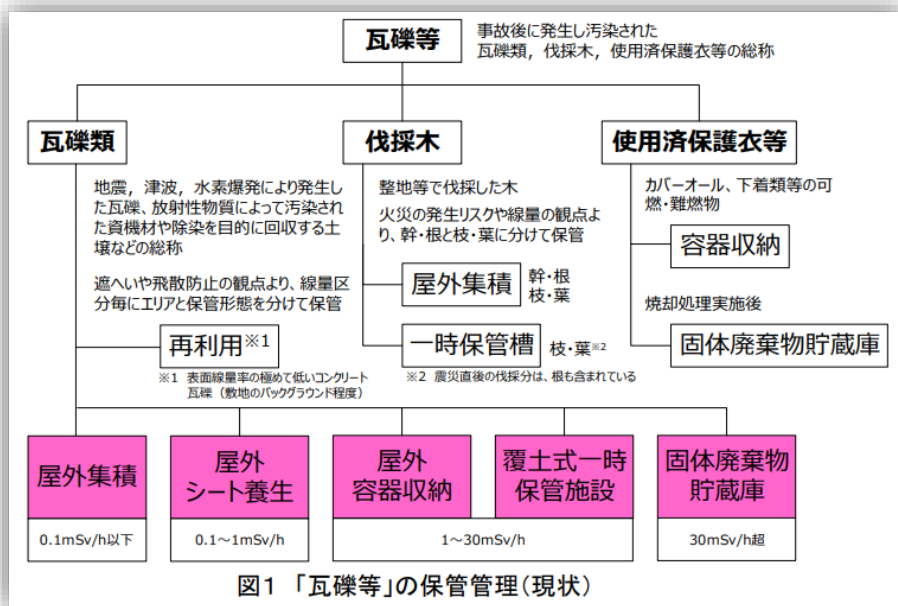
概要に戻る

### 3 (1) 保管されている廃棄物の種類・性状別の保管ルール

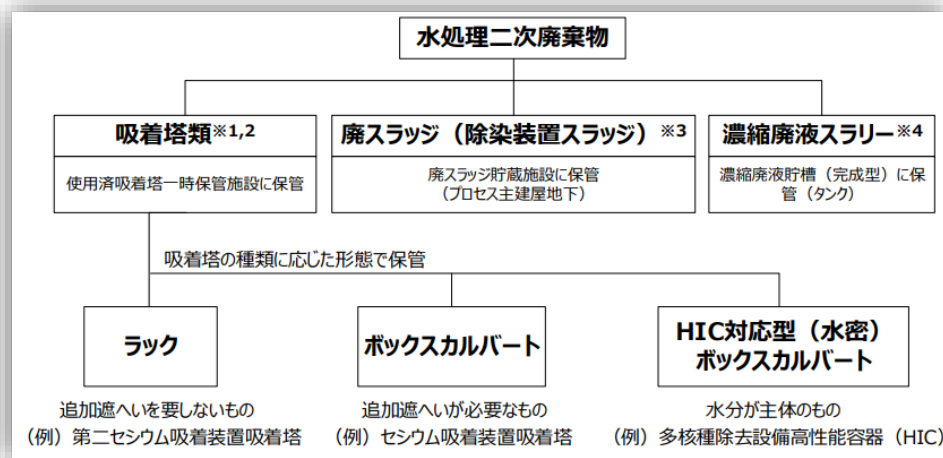
前ページまでで見てきた通り、2023年時の福島第一原子力発電所のインベントリの大半は使用済み核燃料が占めます。

本レポートでは、1・2・5・6号機使用済み核燃料プール・共用プール・乾式キャスク仮保管設備に保管された使用済み核燃料、いまだ手を付けられていない1～3号機原子炉内の核燃料デブリ、表面線量率が低い金属・コンクリートやフランジタンクの解体タンク片等(表面線量率が0.005mSv/h未満である瓦礫類。0.005mSv/hは、年間2000時間作業した時の被ばく線量が、線量限度5年100mSvとなる1時間値(0.01mSv/h)の半分で、敷地内除染の目標線量率と同値)は考察の対象外とします(データとしては記述・引用する場合があります)。

(固体廃棄物ガレキ等の2023年現在の保管ルール)



(水処理二次廃棄物の2023年現在の保管ルール)



(次ページから廃棄物保管の現状)

目次に戻る

概要に戻る



### 3 (2) 廃棄物保管の現状

#### ガレキ等

名称	線量率	量	保管の形態/場所	課題/対策
伐採木 可燃ガレキ		<a href="#">表/ グラフ</a>	一時保管施設 <a href="#">地図参照</a>	雑固体廃棄物焼却設備での焼却後、固体廃棄物貯蔵庫へ <a href="#">地図参照</a>
使用済保護衣等		<a href="#">表/ グラフ</a>	屋外集積 <a href="#">地図参照</a>	雑固体廃棄物焼却設備での焼却後、固体廃棄物貯蔵庫へ <a href="#">地図参照</a>
ガレキ	1～30mSv/h	<a href="#">表/ グラフ</a>	一時保管施設（覆土式等） <a href="#">地図参照</a>	固体廃棄物貯蔵庫へ <a href="#">地図参照</a>
ガレキ	0.1～1mSv/h	<a href="#">表/ グラフ</a>	一時保管施設(シート養生) <a href="#">地図参照</a>	減容/溶融処理後、固体廃棄物貯蔵庫へ、または再利用 <a href="#">地図参照</a>
ガレキ	0.005～0.1mSv/h	<a href="#">表/ グラフ</a>	一時保管施設(屋外集積) <a href="#">地図参照</a>	減容/溶融処理後、固体廃棄物貯蔵庫へ、または再利用 <a href="#">地図参照</a>
ガレキ	0.005mSv/h未満	<a href="#">表/ グラフ</a>	一時保管施設(屋外集積) <a href="#">地図参照</a>	減容/溶融処理後、固体廃棄物貯蔵庫へ、または再利用 <a href="#">地図参照</a>
汚染土	0.005～0.1mSv/h	<a href="#">表/ グラフ</a>	一時保管施設 <a href="#">地図参照</a>	固体廃棄物貯蔵庫へ <a href="#">地図参照</a>
放射性固体廃棄物 (焼却灰等)		<a href="#">表/ グラフ</a>	固体廃棄物貯蔵庫 <a href="#">地図参照</a>	
計		53万 5300 m <sup>3</sup>	(参考) 東京ドーム容積: 124万 m <sup>3</sup>	(次ページに水処理二次廃棄物)

出典：2023年11月30日 東京電力ホールディングス株式会社「固体廃棄物の保管管理計画～2023年度改訂について～」  
[https://www.tepco.co.jp/decommission/information/committee/roadmap\\_progress/pdf/2023/d231130\\_09-j.pdf](https://www.tepco.co.jp/decommission/information/committee/roadmap_progress/pdf/2023/d231130_09-j.pdf)  
 2024年3月28日東京電力ホールディングス株式会社「廃炉中長期実行プラン2024」  
[https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/plan/pdf/20240328\\_01.pdf](https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/plan/pdf/20240328_01.pdf)

目次に戻る

概要に戻る

## 4 (2) a 固体廃棄物の管理状況 (ガレキ等)

(更新)

東京電力による 2025年1月31日時点の福島第一原子力発電所の瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況は、下記引用表の通りです。このページは毎月更新していきます。前ページが本レポートでのベースとする2024年4月の数値です。  
(次ページに水処理二次廃棄物管理状況)

分類	保管場所	保管容量 <sup>*1</sup>	保管量 <sup>*1</sup>	前回集約からの増減 <sup>*1</sup>	エリア占有率	保管量 / 保管容量 <sup>**</sup> 割合	トピックス	
瓦礫類	A	13,800 m <sup>3</sup>	5,200 m <sup>3</sup>	+1,000 m <sup>3</sup>	38%	323,600 / 397,900 81%	・主な増減理由 エリア整理のための移動 (エリアA) エリア整理のための移動 (エリアC) エリア整理のための移動 (エリアF) エリア整理のための移動 (エリアP1) フランジタンク除染作業 (エリアAA) 敷地造成関連工事 (エリアBB) 1~4号機建屋周辺関連工事 (エリアCC) エリア整理のための移動 (エリアEE2) エリア整理のための移動 (エリアe) 敷地造成関連工事 (エリアK)	
	B	5,300 m <sup>3</sup>	5,300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%			
	C	67,000 m <sup>3</sup>	65,900 m <sup>3</sup>	-100 m <sup>3</sup>	98%			
	D	2,700 m <sup>3</sup>	2,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	97%			
	F	7,100 m <sup>3</sup>	6,600 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	93%			
	J	6,300 m <sup>3</sup>	6,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	95%			
	N	9,700 m <sup>3</sup>	9,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	99%			
	O	44,100 m <sup>3</sup>	44,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%			
	P1	62,700 m <sup>3</sup>	53,600 m <sup>3</sup>	-500 m <sup>3</sup>	86%			
	U	800 m <sup>3</sup>	700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%			
	V	6,000 m <sup>3</sup>	6,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%			
	AA	58,000 m <sup>3</sup>	33,500 m <sup>3</sup>	+600 m <sup>3</sup>	58%			
	BB	44,800 m <sup>3</sup>	42,600 m <sup>3</sup>	+300 m <sup>3</sup>	95%			
	CC	18,800 m <sup>3</sup>	15,900 m <sup>3</sup>	+200 m <sup>3</sup>	85%			
	DD	10,800 m <sup>3</sup>	9,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	89%			
	EE1	8,600 m <sup>3</sup>	1,900 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	22%			
	EE2	6,300 m <sup>3</sup>	3,200 m <sup>3</sup>	-1,000 m <sup>3</sup>	52%			
	d	1,900 m <sup>3</sup>	1,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	85%			
	e	6,700 m <sup>3</sup>	4,100 m <sup>3</sup>	-100 m <sup>3</sup>	61%			
	k	9,500 m <sup>3</sup>	4,500 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	48%			
l	7,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	0%				
G <sup>*3</sup>	40,000 m <sup>3</sup>	1,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	3%				
H <sup>*3</sup>	43,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	0%				
M <sup>*3</sup>	45,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	0%				
E1	16,000 m <sup>3</sup>	7,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	47%	29,100 / 55,300 53%	・主な増減理由 エリア整理のための移動 (エリアP2) エリア整理のための移動 (エリアX)		
P2	6,700 m <sup>3</sup>	4,800 m <sup>3</sup>	-600 m <sup>3</sup>	72%				
W	11,600 m <sup>3</sup>	2,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	18%				
X	16,600 m <sup>3</sup>	12,900 m <sup>3</sup>	微増	78%				
シート養生 (0.1~1mSv/h)	m	4,400 m <sup>3</sup>	1,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	38%			
	E2 <sup>*2</sup>	1,200 m <sup>3</sup>	400 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	33%	16,400 / 17,200 95%		
覆土式一時保管施設、容器 (1~30mSv/h)	L	16,000 m <sup>3</sup>	16,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%			
固体廃棄物貯蔵庫 <sup>*2</sup>		83,300 m <sup>3</sup>	35,700 m <sup>3</sup>	+1,900 m <sup>3</sup>	43%	35,700 / 83,300 43%	・主な増減理由 エリア整理のための移動	
合計		553,700 m <sup>3</sup>	404,800 m <sup>3</sup>	+1,900 m <sup>3</sup>	73%			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G <sup>*3</sup>	40,000 m <sup>3</sup>	100 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	0%	33,000 / 134,000 25%	・主な増減理由 エリア整理のための移動 (エリアH) エリア整理のための移動 (エリアM)
		H <sup>*3</sup>	43,000 m <sup>3</sup>	12,500 m <sup>3</sup>	-300 m <sup>3</sup>	29%		
		M <sup>*3</sup>	45,000 m <sup>3</sup>	18,800 m <sup>3</sup>	+300 m <sup>3</sup>	42%		
	一時保管槽 (枝・葉)	V	6,000 m <sup>3</sup>	1,500 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	26%	37,300 / 41,600 90%	
		G	29,700 m <sup>3</sup>	26,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	88%		
		T	11,900 m <sup>3</sup>	11,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	94%		
合計		175,600 m <sup>3</sup>	70,300 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	40%			
使用済保護衣等 <sup>*3</sup>	屋外集積	25,300 m <sup>3</sup>	9,300 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	37%			
放射性固体廃棄物 (焼却灰等) <sup>*4</sup>	固体廃棄物貯蔵庫	63,700 m <sup>3</sup>	38,400 m <sup>3</sup>	微増	60%			

(参考)  
東京ドーム容積: 124万 m<sup>3</sup>

目次に戻る

概要に戻る

出典：2025年2月27日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合／事務局会議 (第135回) 資料 東京電力「ガレキ伐採木水処理二次廃棄物の管理状況(2025.1131時点)」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2025/02/02/3-4-3.pdf>

## 水処理二次廃棄物

名称	種類/性状	量	形態	保管場所	課題/対策
吸着塔類 用語解説へ	汚染水をろ過した後に残った汚泥・フィルター等 追加遮へいを要しない第二セシウム吸着装置吸着塔	表/ グラフ	ラック	使用済Cs吸着塔 一時保管施設 地図参照	今後検討される処理方策を経て大型廃棄物保管庫(2025年竣工予定)へ 地図参照
	汚染水をろ過した後に残った汚泥・フィルター等 追加遮へいが必要なセシウム吸着装置吸着塔	表/ グラフ	ボックスカルバート 用語解説へ	使用済Cs吸着塔 一時保管施設 地図参照	今後検討される処理方策を経て大型廃棄物保管庫(2025年竣工予定)へ 地図参照
	汚染水をろ過した後に残った汚泥・フィルター等水分が主体の多核種除去設備高性能容器(HIC) 用語解説へ	表/ グラフ	HIC対応型(水密)ボックスカルバート 用語解説へ	使用済Cs吸着塔 一時保管施設 地図参照	検討中の処理方策を経て大型廃棄物保管庫(2025年竣工予定)へ 地図参照
廃スラッジ(除染装置スラッジ) 用語解説へ	※事故直後に発生、新たに発生する予定なし	表/ グラフ	用語解説へ	廃スラッジ貯蔵施設(プロセス主建屋地下) 地図参照	今後検討される処理方策を経て大型廃棄物保管庫(2025年竣工予定)へ 地図参照
濃縮廃液スラリー 用語解説へ	※事故直後に発生、新たに発生する予定なし	表/ グラフ		廃スラッジ貯蔵施設(高温焼却炉建屋地下) 地図参照	今後検討される処理方策を経て大型廃棄物保管庫(2025年竣工予定)へ 地図参照
計		吸着塔:5662本 廃スラッジ・廃液スラリー:9900 m <sup>3</sup>	(次ページから固体廃棄物の管理状況)		

## 4 (2) b 固体廃棄物の管理状況(水処理二次廃棄物)

(更新)

下の引用上段は東京電力による2024年5月2日時点の福島第一原子力発電所の水処理二次廃棄物の管理状況です。

この数値を本レポートでのベースとします。引用下段は2025年2月6日時点の数値です。こちらは毎月更新していきます。

(次ページに固体廃棄物保管エリアの構内配置図)

分類	保管場所	種類	保管量	前回集約からの増減	保管量 / 保管容量 割合	トピックス
水処理二次廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	779 本	0 本	5,756 / 6,692 86%	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	263 本	0 本		
		第三セシウム吸着装置使用済ベッセル	20 本	0 本		
		多核種除去設備等保管容器	4,348 基	+13 基		
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	90 本	0 本		
		多核種除去設備処理カラム	17 塔	0 塔		
		モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	239 本	0 本		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		423 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	423 / 700 60%	
		濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,492 m <sup>3</sup>	+12 m <sup>3</sup>	9,492 / 10,300 92%

分類	保管場所	種類	保管量	前回集約からの増減	保管量 / 保管容量 割合	トピックス
水処理二次廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	779 本	0 本	5,860 / 6,692 88%	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	265 本	0 本		
		第三セシウム吸着装置使用済ベッセル	22 本	0 本		
		多核種除去設備等保管容器	4,445 基	+20 基		
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	90 本	0 本		
		多核種除去設備処理カラム	17 塔	0 塔		
		モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	242 本	+1 本		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		477 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	477 / 700 68%	
		濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,462 m <sup>3</sup>	-3 m <sup>3</sup>	9,462 / 10,300 92%

出典：2024年5月30日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合／事務局会議（第126回）資料 東京電力  
「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2024.4.30時点)」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2024/05/05/3-4-2.pdf>

2025年2月27日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合／事務局会議（第135回）資料 東京電力

「ガレキ伐採木水処理二次廃棄物の管理状況(2025.02.06時点)」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2025/02/02/3-4-3.pdf>

目次に戻る

概要に戻る

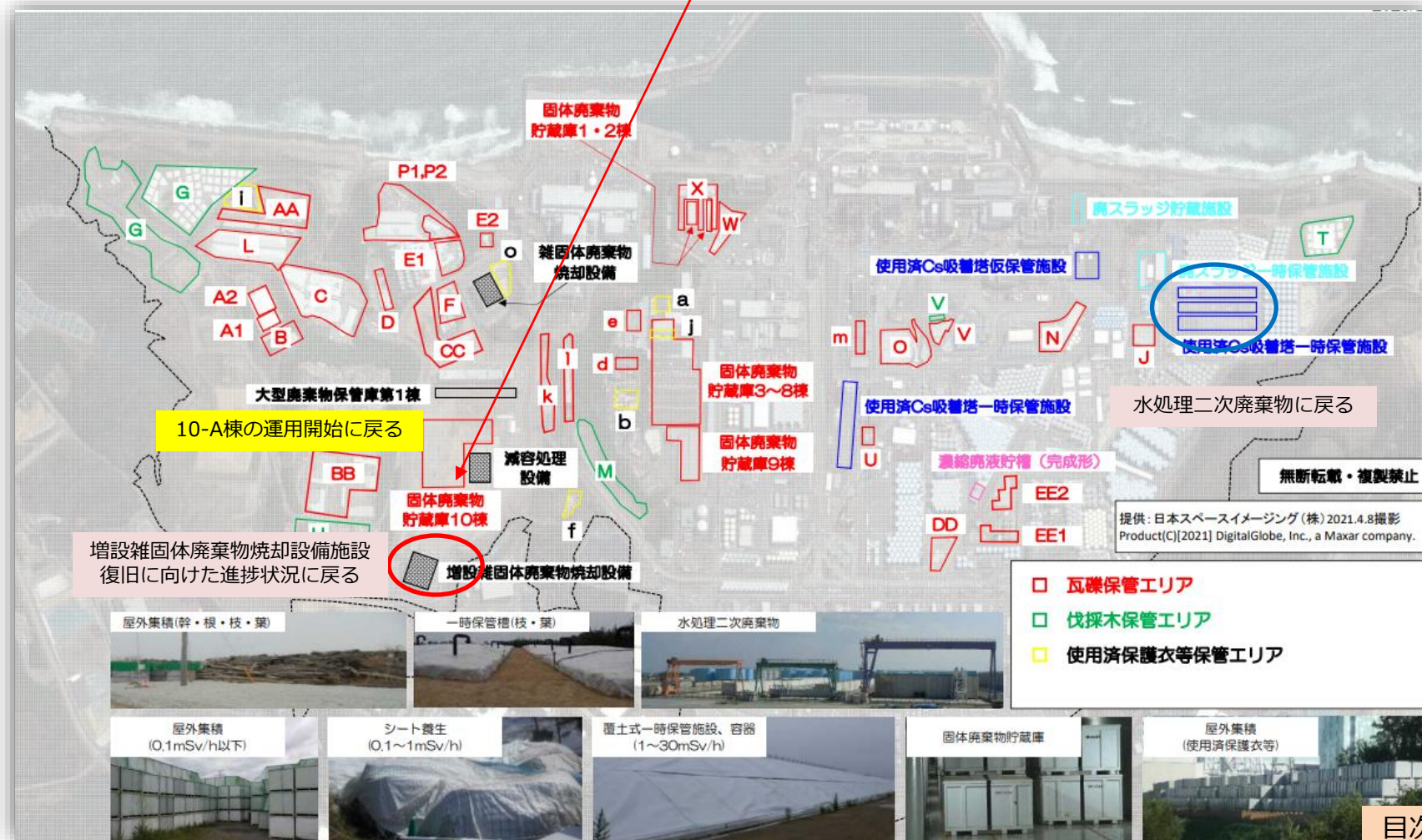


### 4 (3) c 固体廃棄物の管理状況 (最新配置図)

(更新)

2025年1月30日時点の現状です。A~C棟のうちA棟が完成した**固体廃棄物貯蔵棟10棟**が示されています

3ページ前が **本レポートでのベースとする2024年4月の数値です。** (次ページに固体廃棄物保管量の推移)



目次に戻る

概要に戻る

出典: 2025年2月27日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合/事務局会議(第135回)資料 東京電力「ガレキ伐採木水処理二次廃棄物の管理状況(2025.1131時点)」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2025/02/02/3-4-3.pdf>



## 4 (4) 固体廃棄物の管理状況(保管量の推移)

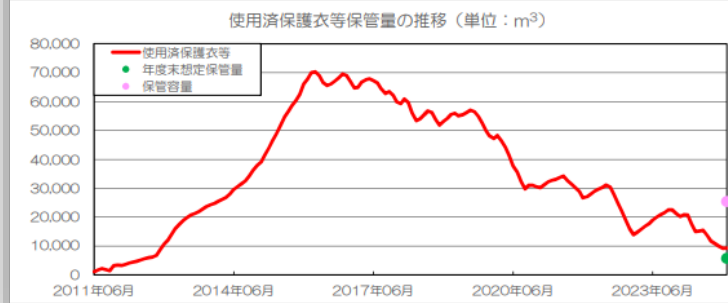
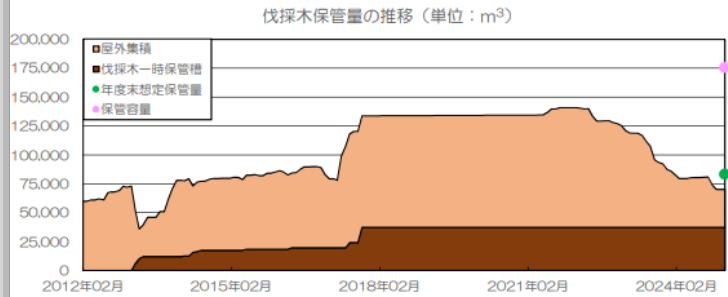
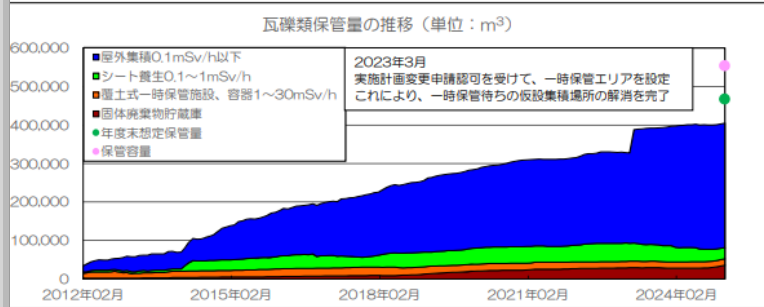
(更新)

下引用画像は最新の福島第一原子力発電所の固体廃棄物保管量の推移です。毎月更新していきます。

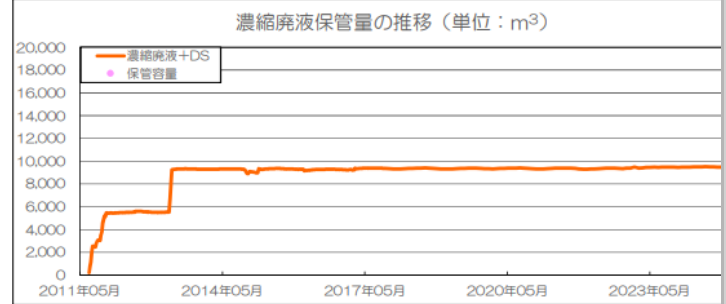
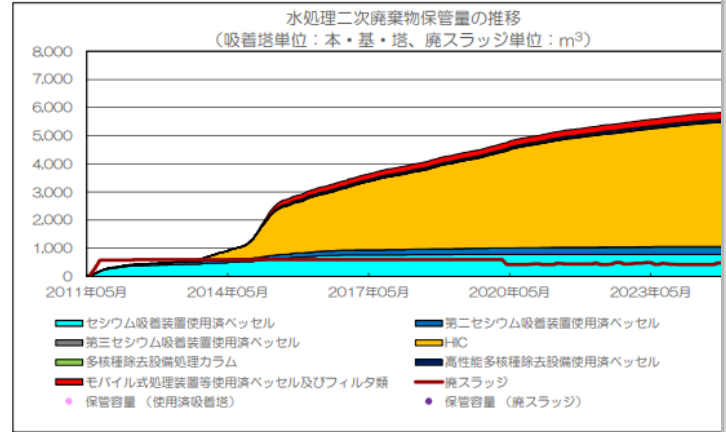
各グラフとも左端が過酷事故発生後、右端がほぼ現在です。

(次ページから放射性廃棄物の処理・処分スケジュール)

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2025.1.31時点)



水処理二次廃棄物の管理状況(2025.2.6時点)



ガレキ等に戻る

水処理二次廃棄物に戻る

保管管理計画に戻る

目次に戻る

概要に戻る

出典: 2025年2月27日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合/事務局会議(第135回)資料 東京電力

「ガレキ伐採木水処理二次廃棄物の管理状況(2025.1.131時点)」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2025/02/02/3-4-3.pdf>

## 5 固体廃棄物の保管管理計画(2024年度改訂版)

### (4) 固体廃棄物の実績・発生量予測の2023年11月版から2024年12月版での変化(テキスト)

東京電力資料中「福島第一原子力発電所の瓦礫等保管のイメージ」図右上の数値によると。

#### 瓦礫等

2023年11月版 → 2024年12月版  
発生量実績は、2023年3月までが約 52 万 m<sup>3</sup> → 2024年3月までが約 50 万 m<sup>3</sup>  
発生量予測は、2035年3月までが約 24 万 m<sup>3</sup> → 2036年3月までが約 19 万 m<sup>3</sup>  
となっています。

実績・予測とも数値が低減しているのは、保管量の推移グラフ [参照](#) を見ると、東京電力が2023年11月版⇒2024年12月版の変更点としている

- 瓦礫等の発生量について、最新の工事計画を基に予測
- 解体の見通しのある溶接タンク(J8・J9 タンク)を発生量に含めて予測
- 伐採木の発生量について、2023 年度までの焼却実績を反映

のうち、伐採木・使用済み保護衣等の焼却による減容化が最大の要因のようです。

(次ページに水処理二次廃棄物、放射性固体廃棄物発生量予測の現状)

出典：2023年11月30日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合事務局会議（第120回）東京電力資料  
「福島第一原子力発電所の固体廃棄物の保管管理計画2023年11月版」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2023/11/11/3-4-2-2.pdf>

2024年12月2日廃東京電力資料「福島第一原子力発電所の固体廃棄物の保管管理計画2023年12月版」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2024/12/12/3-4-5-2.pdf>

[目次に戻る](#)

[概要に戻る](#)

## 5 固体廃棄物の保管管理計画(2024年度改訂版) **続き**

### (4) 固体廃棄物の実績・発生量予測の2023年11月版から2024年12月版での変化

東京電力資料によると。

#### 水処理二次廃棄物

処理が必要となる汚染水量の推定、多核種除去設備で発生させたスラリーを脱水する安定化処理設備の設計進捗状況、除染装置スラッジの抜出・脱水処理設備の設計進捗、ゼオライト土嚢の現場調査の進捗など未確定な要素が多く、定量的な発生量予測はできていないようです。

[ゼオライト土嚢等集積作業に戻る](#)

#### 放射性固体廃棄物

処理が必要となる可燃・難燃物(伐採木ならびに使用済保護衣等、瓦礫類)の発生量の想定、焼却対象によって減容率が異なり、焼却灰の発生量の変動する想定など未確定な要素が多く、水処理二次廃棄物と同じく定量的な発生量予測はできていないようです。

出典：2023年11月30日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合事務局会議（第120回）東京電力資料  
「福島第一原子力発電所の固体廃棄物の保管管理計画2023年11月版」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2023/11/11/3-4-2-2.pdf>

2024年12月2日廃東京電力資料「福島第一原子力発電所の固体廃棄物の保管管理計画2023年12月版」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2024/12/12/3-4-5-2.pdf>

[目次に戻る](#)

[概要に戻る](#)

### 4 (3) b 固体廃棄物の管理状況(2028年度配置予想図)

2028年度の福島第一原子力発電所の「瓦礫等」及び「水処理二次廃棄物」の保管の将来像です。

(次ページに今後建設を予定している廃棄物関連施設)

■ 2028年度に「瓦礫等」の屋外一時保管を解消\* \*再利用・再使用対象を除く



目次に戻る

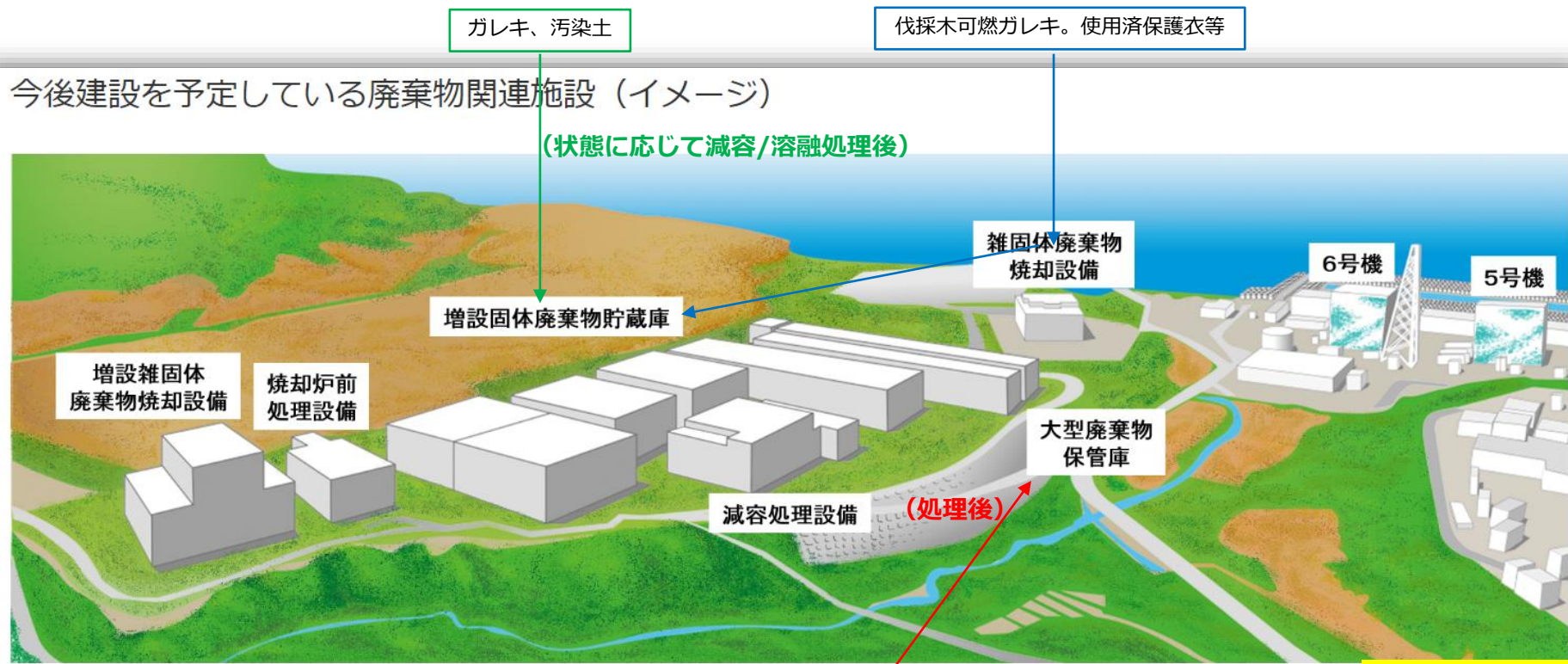
概要に戻る



### 4 (3) c 今後建設を予定している廃棄物関連施設(イメージ)

※ 色付きテキストボックス、矢印、かっこ書きは筆者

(次ページに固体廃棄物の管理状況 最新配置図)



発電所の敷地北側に新たな廃棄物関連施設の建設を進めています。

ガレキ等に戻る

吸着塔類、廃スラッジ（除染装置スラッジ）、濃縮廃液スラリー

水処理二次廃棄物に戻る

目次に戻る

概要に戻る



# 1 福島第一原子力発電所における放射性固体廃棄物およびその対策の概要

(New!)

## (1) 放射性固体廃棄物

(次ページに対策の概要)

名称	内容	現在の保管形態	分類等
<b>放射性固体廃棄物</b>			
瓦礫類	地震、津波、水素爆発により発生した瓦礫、放射性物質によって汚染された資機材や除染を目的に回収する土壌など	遮へいや飛散防止の観点より、線量区分毎にエリアと保管形態を分けて保管 表面線量率の極めて低いコンクリート瓦礫(敷地のバックグラウンド程度)は再利用	0.1mSv/h以下 屋外集積 0.1~1mSv/h 屋外シート養生 1~30mSv/h 屋外容器収納
伐採木	整地等で伐採した木	火災の発生リスクや線量の観点より、おおむね、幹・根と枝・葉は一時保管槽に分けて保管	覆土式一時保管施設 30mSv/h超 固体廃棄物貯蔵庫
使用済保護衣等	カバーオール、下着類等の可燃・難燃物	容器収納 焼却処理実施後固体廃棄物貯蔵庫	放射性固体廃棄物のうち可燃物については、雑固体廃棄物焼却設備(2016年3月運用開始)、増設雑固体廃棄物焼却設備(2022年5月運用開始。2024年2月火災報知器作動→注水により運転休止中)において焼却減容する。 焼却灰はドラム缶等に収納し、固体廃棄物貯蔵庫に保管
<b>水処理二次廃棄物</b>			
吸着塔類	建屋滞留水等の汚染水処理に伴って発生する廃棄物。吸着材のほか、スラリー、モバイル式処理装置のフィルタ類などが含まれる。	使用済吸着塔一時保管施設に保管 モバイル式処理装置のもの以外のフィルタ類は保管容器に収納後、固体廃棄物貯蔵庫、瓦礫類一時保管エリアに保管する。	第二セシウム吸着装置吸着塔など追加遮へいを要しないものはラック保管、セシウム吸着装置吸着塔など追加遮へいを要するものはボックスカルバートに、多核種除去設備高性能容器(HIC)など水分が主体のものはHIC対応型(水密)ボックスカルバートに保管する。
廃スラッジ(除染装置スラッジ)	除染装置の運転に伴って発生した凝集沈殿物	廃スラッジ貯蔵施設(プロセス主建屋地下)に保管	同装置の処理運転予定はないため、新たに発生する予定はない。
濃縮廃液スラリー		濃縮廃液貯槽(完成型)に保管(タンク)	

目次に戻る

概要に戻る

# 1 福島第一原子力発電所における放射性廃棄物およびその対策の概要 (New!)

## (2) 放射性固体廃棄物の対策の概要

前ページで見たように、東京電力は現時点では、福島第一原子力発電所構内における放射性物質総存在量(インベントリ)の大部分を占める使用済み核燃料・核燃料デブリ、および以下の放射性固体廃棄物を、現在使用中または解体等がデブリ取り出し完了以降と考えられる等の理由から、今後10年間の発生予測の対象から除外しています。

原子炉建屋・タービン建屋・廃棄物処理建屋・コントロール建屋・廃棄物集中処理建屋・共用プール・高温焼却炉建屋、多核種除去設備(ALPS)等の水処理設備、大部分の溶接タンク、1・3・4号機の燃料取り出しカバー、燃料デブリ取り出し時に発生する燃料デブリと区別可能な「瓦礫等」、新事務本館・免震重要棟等、旧事務本館・企業棟等。

したがって、現在の放射性固体廃棄物対策は、

- ① 上記のものを除く、事故以前から福島第一原子力発電所構内に存在しており、事故によって1～3号機の原子炉建屋から放出された放射性物質によって放射能を帯びるに至った全ての固体物のうち現時点で処理・管理が可能な固体物
- ② 廃炉作業のために事故後にイチエフ外部から搬入され放射能を帯びるに至った物質のうち現時点で処理・管理が可能な固体物
- ③ 原子炉建屋内に流入する地下水によって原子炉建屋内部から外部に移転し続けている放射性物質、および事故直後から建屋内の配管等に残っている高線量の水を処理した際に発生する放射性物質のうち、現時点で処理・管理が可能な物質

を、イチエフ構内・構外の人や環境を可能な限り汚染することのないよう、どう処理し管理するかということに限られています。

※ 某読者の感想：「つまり、ヤバイモノは「除外」して、そうでないモノだけに対策を選択と集中するってえワケだ」

目次に戻る

概要に戻る

## 10 トピックス (1) 横置きタンクの解体計画

東京電力は、震災直後、RO処理水・蒸発濃縮廃液・RO濃縮塩水の貯留先として使用し、敷地利用効率の観点から溶接型タンクへのリプレースを進める際に、水抜きした上で4箇所に分けて仮置き中の横置きタンク367基について、既存の定検資材倉庫Bにおいて、2024年度下期～2026年度末頃に解体する計画を明らかにしました。

実施計画は2024年5月17日付で認可済みとのことです。

(次ページにJ8・J9エリアの溶接型のタンクの解体計画)



提供：日本スペースイメージング（株）2021.4.8撮影 Product(C)[2021] DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.



目次に戻る

出典：2024年6月27日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合／事務局会議（第127回）資料 東京電力  
「横置きタンクの解体について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2024/06/06/3-1-8.pdf>

概要に戻る



## 10 トピックス (2) J8・J9エリアの溶接型のタンクの解体計画

東京電力は、3号機の燃料デブリ取り出し関連施設の設置場所として想定している J8・J9 エリアの溶接型のタンクの解体について、準備が整い次第、実施計画を申請する予定です。

タンクの解体は、2024年度下期から2025年度末にかけて実施する予定であり、7月からタンク内の残水処理や周囲の干渉物の撤去等の準備作業を実施する予定だそうです。 (次ページに固体廃棄物貯蔵庫第10棟(10-A棟)の運用開始)



目次に戻る

概要に戻る

## 10 トピックス (3) ① 固体廃棄物貯蔵庫第10棟(10-A棟)の運用開始

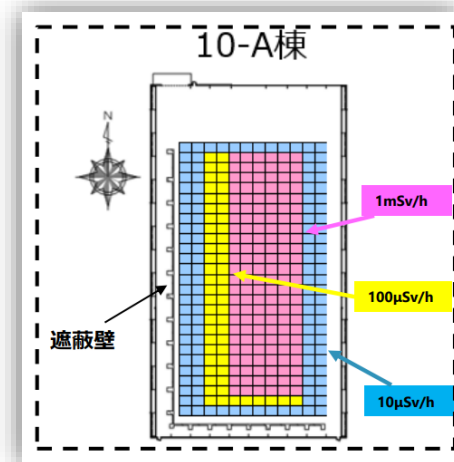
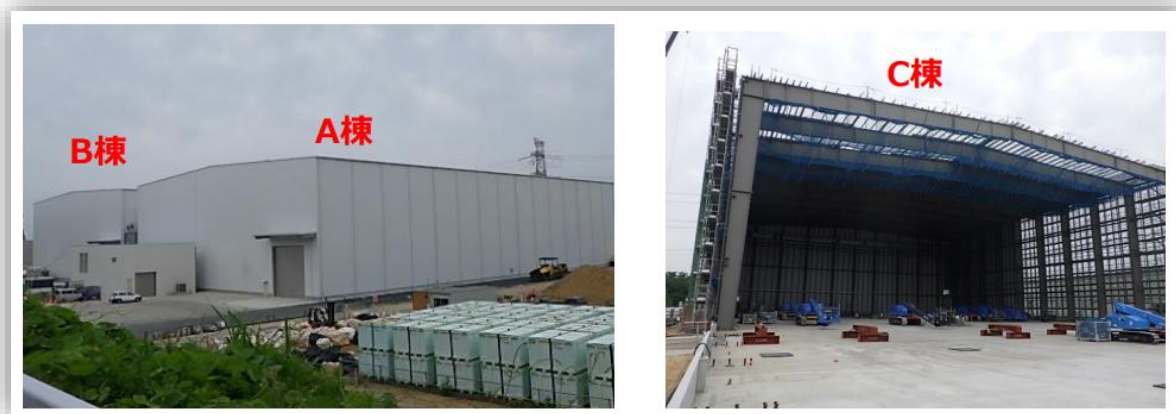
固体廃棄物貯蔵庫第10棟は、廃炉作業において発生した瓦礫類(減容処理設備にて減容処理した金属及びコンクリートを含む)をコンテナに収納して段積みし、屋内に【一時保管】する施設です。A～Cの3棟がありますが、B棟(2024年10月運用開始予定)・C棟(2025年3月 運用開始予定)は現在建設中であり、今回はA棟が使用前検査に合格し2024年8月に運用が開始される予定です。

A～C棟合計で延べ床面積は 約18,000 m<sup>2</sup>、保管容量は 約80,000 m<sup>3</sup>です。場所については[<固体廃棄物の管理状況\(最新配置図\)>](#)をご覧ください。

### ・ 瓦礫類の保管方法

リーチスタッカーという特殊車両で、建屋の奥(南面)から順に1面ずつ、耐震補強でベースフレームを設置し、その上に廃棄物の入った 10 ft、20 ftのハーフハイトコンテナを9段積み重ね、遮蔽蓋を設置します。

コンテナの配置は、線量の低いものを外側に、線量の高いものを内側とし、コンテナによる遮蔽を期待します。そして、最も敷地境界に近い南西側に向けてL字型の遮蔽壁を設置します。



(次ページに一時的な運用と将来的な運用)

[目次に戻る](#)

出典：2024年7月25日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合／事務局会議（第128回）資料 東京電力「固体廃棄物貯蔵庫第10棟(10-A棟)の運用開始について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2024/07/07/3-4-3.pdf>

[概要に戻る](#)



・ 一時的な運用と将来的な運用

一時保管する瓦礫類の表面線量率は、10-A棟・10-B棟は 1 mSv/h以下(将来的には20 μSv/h以下)、10-C棟は 20 μSv/h以下

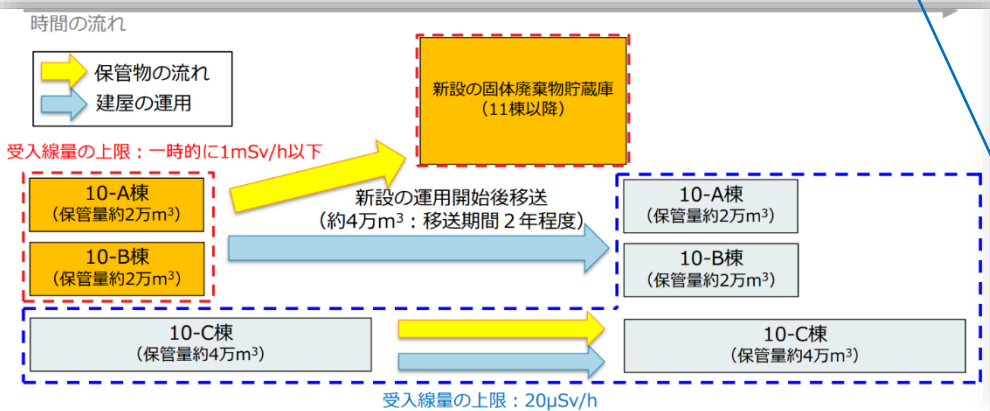
・ 固体廃棄物貯蔵庫の運用

固体廃棄物貯蔵庫第10棟は耐震Cクラスとして設置されますが、屋外一時保管のリスク低減から当面、耐震B+相当の廃棄物も保管します。将来的には、今後建設される固体廃棄物貯蔵庫第11棟以降に耐震B+クラス相当の廃棄物を移送し、将来的にはCクラス相当の廃棄物を保管する計画です。

【原子炉施設の耐震重要度分類】

分類	主な機器・建屋	必要な耐震性
Sクラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉容器、原子炉格納容器、制御棒、非常用ディーゼル発電機など(止める・冷やす・閉じ込める機能を有する設備)</li> <li>上記が設置されている建屋(原子炉建屋など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基準地震動に対して安全機能を保持できること</li> <li>建築基準法で規定される地震力の3.0倍<sup>※</sup></li> </ul>
Bクラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物処理設備 など(機能喪失した場合の影響がSクラス設備と比べ小さい設備)</li> <li>上記が設置されている建屋</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築基準法で規定される地震力の1.5倍<sup>※</sup></li> </ul>
Cクラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>タービン設備、発電機 など(一般産業施設又は公共施設と同等の安全性が要求される設備)</li> <li>上記が設置されている建屋</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築基準法で規定される地震力の1.0倍<sup>※</sup></li> </ul>

※ 機器・配管はさらに2割増し



(次ページは用語解説)

目次に戻る

出典：2024年7月25日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合／事務局会議（第128回）資料 東京電力「固体廃棄物貯蔵庫第10棟(10-A棟)の運用開始について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2024/07/07/3-4-3.pdf>

概要に戻る


## 10 トピックス (3) ② 固体廃棄物貯蔵庫第11棟の設置計画

### およびコンクリートプラント設置について

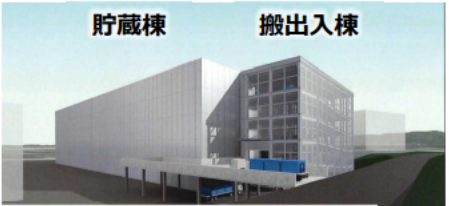
設置場所は、13ページ(2028年度配置予想図)赤丸の位置、固体廃棄物貯蔵庫第10棟の西隣です。以下、計画概要等は、東京電力資料をそのまま画像化して引用します。

(次ページにコンクリートプラントの設置計画)

### 固体廃棄物貯蔵庫第11棟 計画概要

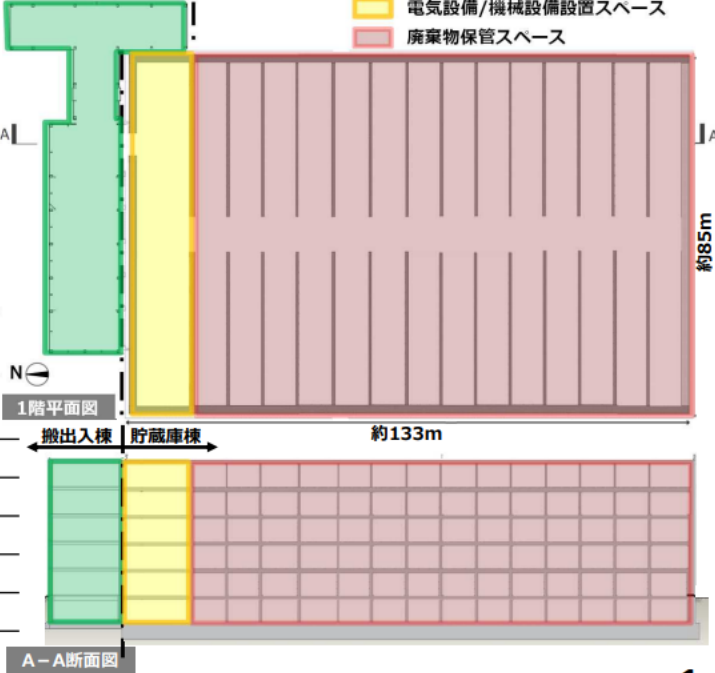


- 固体廃棄物の屋外一時保管解消に向けて、固体廃棄物貯蔵庫第11棟の設置を進める。
- 保管容量は約11.5万m<sup>3</sup>であり、瓦礫類や焼却灰等を保管する計画。



※上図の搬出入棟にも外壁が設置されるため  
外から建屋内部が見えることはない。

■ 搬出入スペース  
■ 電気設備/機械設備設置スペース  
■ 廃棄物保管スペース



1階平面図  
A-A断面図

**貯蔵棟 建物諸元**

構造形式	貯蔵棟：SC造（鋼板コンクリート造） 搬出入棟：S造（鉄骨造）
建築面積	約12,700m <sup>2</sup> (約85m×約133m)
延床面積	約79,500m <sup>2</sup>
階層	地下1階+地上5階
建物高さ	地上 33m
廃棄物保管量	約11.5万m <sup>3</sup>
コンクリート量	約13万m <sup>3</sup>

※今後の設計進捗により変更の可能性あり。

目次に戻る

概要に戻る

出典：2024年12月26日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合／事務局会議（第133回）資料 東京電力「固体廃棄物貯蔵庫第11棟の計画概要及びコンクリートプラント設置」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2024/12/12/3-4-2.pdf>

## コンクリートプラントの設置計画

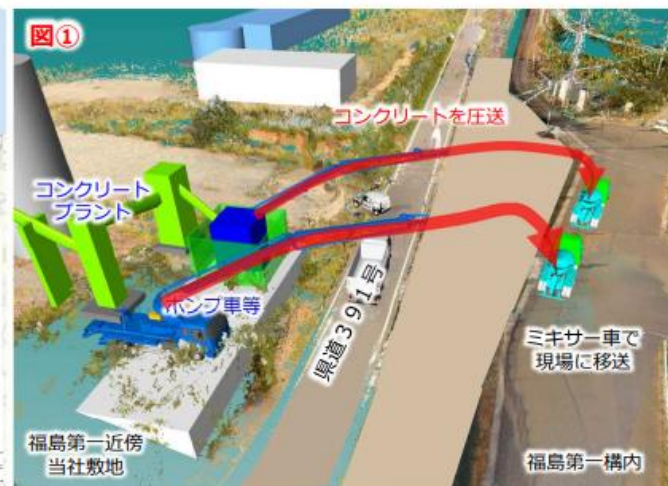


- 固体廃棄物貯蔵庫第11棟を始めとする廃炉関連施設の建設に向けて、建設工事を円滑に進めるため、福島第一原子力発電所構内近傍の当社敷地に、コンクリート製造を行う新たなプラントを設置する計画を進めている。
- コンクリート供給の際には、コンクリートプラントの敷地内に設置したポンプ車等から、県道391号線を越えて構内へコンクリートを圧送する\*。

\* コンクリート供給方法について関係箇所との調整及び協議を完了している。



敷地配置図



コンクリート供給方法のイメージ

(次ページにスケジュール)

目次に戻る

出典：2024年12月26日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合／事務局会議（第133回）資料 東京電力「固体廃棄物貯蔵庫第11棟の計画概要及びコンクリートプラント設置」

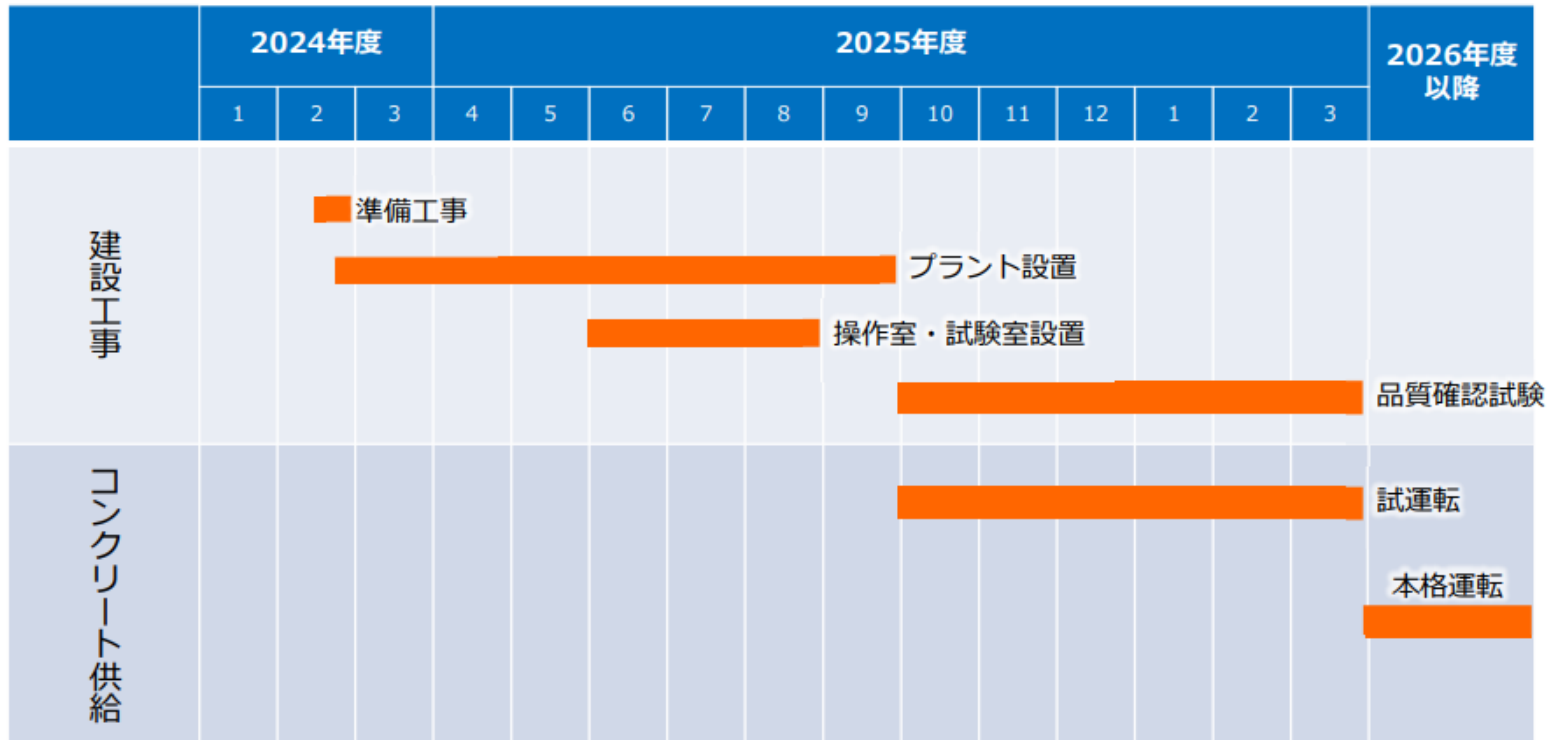
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2024/12/12/3-4-2.pdf>

概要に戻る

## スケジュール



- 固体廃棄物貯蔵庫第11棟のコンクリート基礎工事に向けて、2025年2月からプラント設置工事を開始する予定。
- 品質確認試験や試運転を経て、2026年度にコンクリート供給の本格運転を目指す。



目次に戻る

出典：2024年12月26日廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合／事務局会議（第133回）資料 東京電力  
「固体廃棄物貯蔵庫第11棟の計画概要及びコンクリートプラント設置」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2024/12/12/3-4-2.pdf>

概要に戻る

## 10 トピックス (4) 増設雑固体廃棄物焼却設備施設復旧に向けた進捗状況について

伐採木・可燃ガレキ・使用済保護衣等を焼却・減容する(7ページ参照)増設雑固体廃棄物焼却設備 最新配置図参照 は、2024年2月22日に発生した、チップの発酵・発熱に伴う水蒸気・ガスの発生および火災報知機の発報に伴い、2月23日～25日にかけて廃棄物貯留ピットに注水し、その影響によって運転を停止しています(「[原子炉の状態](#)」2024年2月レポート、77ページ「インシデント・事故情報」で既報)。

この施設を復旧するため、東京電力は、3月22日からピット内のチップ・水の回収作業を行ってきましたが、2024年12月24日に回収が完了しました。

回収した水は5・6号タンクエリアの溶接型タンク(N2タンク)に一時貯留中ですが、その最終処理については、これまで5・6号機滞留水貯留設備へ移送・処理し、散水する計画でしたが、東京電力は、**水質が5・6号機滞留水貯留設備に受け入れ可能な水質条件)を満たしていない、増設焼却炉の噴霧処理系統は使用実績があり、ピット水は増設焼却炉にて焼却予定であった木材チップ由来であることから安全を確保できる等の理由から、**今後、ピット水を仮設水処理設備にて処理した後、増設焼却炉の建屋ドレンサンプへ移送し、水処理を行った上で、増設焼却炉復旧後に同施設にて噴霧処理する計画に変更しました。

また、この処理による安全性について東京電力は下記の判断をしているようです。

- ・ ピット水中の放射性物質の大部分は、チップに付着していたフォールアウト由来であり、増設焼却炉の受入基準より十分低い。
- ・ 放射性物質は排ガスフィルタにて除去する。噴霧処理にあたっては、炉内温度やフィルタ差圧及び排ガス放射線モニタなどのパラメータを監視しながら慎重に処理を進める。

(次ページに続く)

[目次に戻る](#)

[概要に戻る](#)





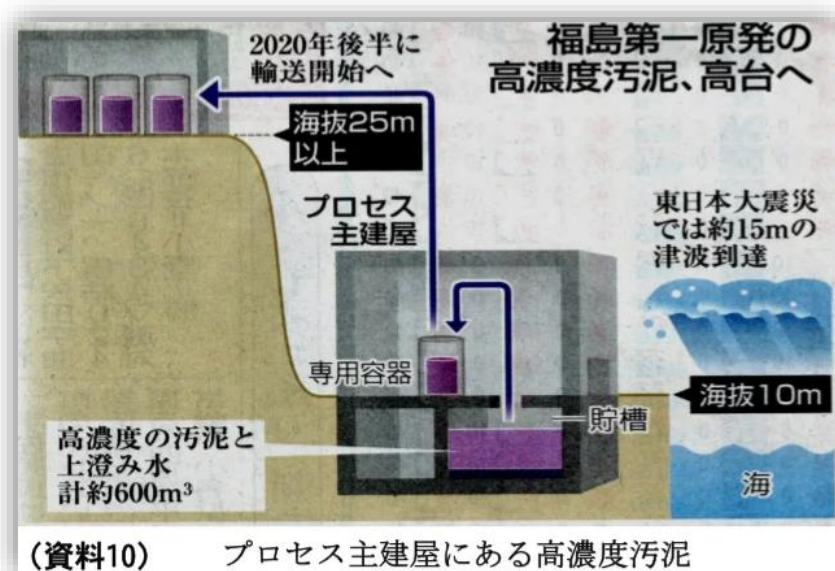
## 10 トピックス (5) 高温焼却炉建屋およびプロセス主建屋ゼオライト土嚢等集積作業

(New!)

高温焼却炉建屋およびプロセス主建屋ゼオライト土嚢と活性炭土嚢(以下、ゼオライト土嚢等)は、事故直後、高温焼却炉建屋(HTI)およびプロセス主建屋(PMB)で受け入れた滞留水の放射性物質を吸着する等の目的で敷設されたものです。

この土嚢等は、原子力規制委員会の「福島第一原子力発電所の中期的リスクの低減目標マップ(2023年3月版)」によれば、Cs-137換算で3.1 PBqという大量の放射線量を有しています [参照](#)。

**【筆者注:PBq(ペタベクレル):Pはペタ(peta): $10^{15}=1$ 千兆。Bqはベクレル=放射能の強さを表す単位で、単位時間(1秒間)内に原子核が崩壊する数を表します】**



また、この高温焼却炉建屋、プロセス主建屋は海拔 8.5 m盤にあり、地震発生時の津波の引き波による土嚢等の廃スラッジの屋外流出リスクがあります。この対策として建屋の開口部である出入口や管路貫通孔の閉塞等は完了していますが、さらに3.11を超える津波への対策として、廃スラッジ回収施設を新たに設置し、貯槽Dから廃スラッジを抜き出し、保管容器に入れて、検討用津波が到達する高さ以上の高台エリア(海拔 33.5 m盤)の一時保管施設へ移送する取り組みが進められています。

左の画像は[indianlegend氏のブログ](#)から引用させていただきました。

(次ページに続く)

[目次に戻る](#)

[概要に戻る](#)

(New!)

この取り組みの最初の段階のゼオライト土嚢等の集積作業を行う現場は、高線量に加え、狭く、暗く、障害物が多い環境です。このため東京電力は、集積作業着手に向けて、2022年10月からモックアップを実施し、現在も、福島第一の作業現場における準備作業(架台の設置やROVの搬入、動作確認等)を行っていることから、2025年3月中旬～2025年3月下旬を目途に、十分な安全対策と被ばく抑制対策を講じ、集積作業に着手する計画だそうです。

また、東京電力は、HTI・PMBの最下階のゼオライト土嚢等の回収作業は、遮へい効果が期待できる水中回収を軸に検討し、効率化を図るため、集積作業と容器封入作業の2ステップで実施するそうです。

### (ゼオライト土嚢等の回収作業の概要)

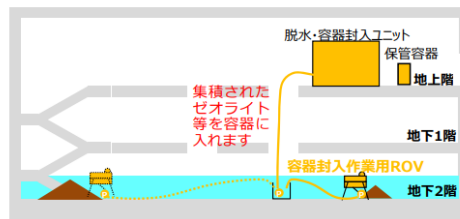
- HTI/PMBの最下階のゼオライト土嚢等の回収は、作業の効率化による工期の短縮を図るため、回収作業を“集積作業”と“容器封入作業”に分けて実施します。
- なお、土嚢袋は劣化傾向が確認されており、袋のまま移動ができないことから、“集積作業”“容器封入作業”いずれも、中身のゼオライト等を滞留水とともにポンプで移送する方式を基本とします。

#### 集積作業

- ✓ 集積用の作業用ロボット（以下、ROV）を地下階に投入し、ゼオライトと活性炭を吸引し、集積場所に移送します。
- ✓ 集積作業に向けて、階段に敷設されている活性炭土嚢は、水流を用いて、遠隔で地下階に落とし込みます。

#### 容器封入作業

- ✓ 集積されたゼオライトおよび活性炭を容器封入作業用のROVで地上階に移送し、建屋内で脱塩、脱水を行ったうえ、金属製の保管容器に封入します。その後、33.5m盤の一時保管施設まで運搬する計画です。



今回実施する作業

HTI・PMBの階段室に敷設されている活性炭土嚢の集積作業については、地上階から最下階への落とし込み作業が2024年7月25日から開始されているようです。

なお回収量については、ゼオライト土嚢の現場調査の進捗など未確定な要素が多く定量的な発生量予測はできていないようです 参照。

目次に戻る

概要に戻る

# 用語解説

吸着塔	キュリオン、サリー（セシウム吸着装置）、ALPS（多核種除去設備）で除去した放射性汚泥を吸着させる耐水・耐圧容器	サリー吸着塔 	多核種除去設備 (ALPS) 	高性能容器(HIC) 
ボックスカルバート	box culvert	吸着塔を保管しているコンクリート製の容器 		
高性能容器(HIC)	High Integrity Container	放射線を遮蔽(しゃへい)するポリエチレン・ステンレス製容器。β線照射の積算吸収線量の上限値(5,000kGy)を超えると構造健全性が確認されておらず移し替えが必要とされる		
HIC対応型(水密)ボックスカルバート		遮蔽機能を有する蓋つきコンクリート製容器		
スラッジ	sludge	水中の浮遊物質が液体から分離したもの		
プロセス主建屋(PMB)	集中廃棄物処理建屋の一つ。他にサイトバンク建屋、焼却工作室建屋、雑固体廃棄物減容処理建屋がある。	高温焼却炉建屋(HTI)とともに過酷事故直後から滞留水を敷地外に流出させない措置として、建屋地下で1-4号機各建屋の滞留水を集約・貯留してきた。		
スラリー	slurry	汚泥や鉍物などが混ざっている液体状の混合物		

[目次に戻る](#)

[概要に戻る](#)